

生成AIとDXによる 社会的弱者支援の可能性

孤立と情報断絶を乗り越える テクノロジーの役割と恩恵

担当学生：野上隆之介、大内悠生、金刺浩志、楊小龍

担当教員：久保田貴文・平石隆司・ジェスロ ケニー

研究課題

■ 社会背景・問題意識

- デジタル化の加速に伴い情報格差が拡大し、**SNEP**（孤立無業者）や**高齢者**、**過疎地域**の住民といった社会的弱者が取り残されつつある。
- こうした課題に対し、**生成AI**の登場は**アクセス障壁を下げ**、**多様で柔軟な支援**を実現する新たなアプローチを提示している。

■ 技術的文脈

- 生成AIは**対話型インターフェース**として機能し、高度な情報リテラシーがなくても直感的に利用できる。
- さらに共感的な応答によってユーザーに寄り添い、従来は**アクセスが難しかった情報や支援**にも手軽にリーチさせる力を持つ。

■ 研究の意義

- テクノロジーは、単なる業務効率化のツールから、誰もが**恩恵を享受できる包摂の手段**へと進化している。
- これに伴いDXの本質も「**人間中心**」「**社会的信頼**」「**倫理的設計**」という観点で再定義され、より持続可能で公平なデジタル社会を支える基盤として捉え直されている。

社会的弱者のデジタルインクルージョン

デジタル・トランスフォーメーション (DX)

Digital Transformation (デジタルトランスフォーメーション)

企業が外部エコシステム（顧客、市場）の劇的な変化に対応しつつ、内部エコシステム（組織、文化、従業員）の変革を牽引しながら、第3のプラットフォーム（クラウド、モビリティ、ビッグデータ/アナリティクス、ソーシャル技術）を利用して、新しい製品やサービス、新しいビジネスモデルを通して、ネットとリアルの両面での顧客エクスペリエンスの変革を図ることで価値を創出し、競争上の優位性を確立すること

「世界最先端デジタル国家創造宣言・官民データ活用推進基本計画」（令和2年7月17日閣議決定）

DXの恩恵を受けられない人 = デジタル弱者

- デジタル端末・操作スキル・通信環境のいずれかが不足

社会的弱者（特に、デジタル弱者）への支援

- ① 端末・通信費の負担軽減
- ② 伴走型のデジタル学習
- ③ 誰でも使えるユニバーサルデザイン。

行政・企業・地域が連携し、
「**使えないから使わない**」を「**使えるから未来が拓ける**」へ反転

研究対象と研究目的

■ 基礎的研究

- 感情インタフェース：共感のしきい値と応答責任の指針策定
- 法律・倫理ガイドライン：プライバシー保護と誤情報責任の分界

■ 応用的研究

- SNEP（孤立無業者）向け：孤立リスク可視化ダッシュボード＋匿名生成AI相談窓口
- 高齢者向け：防災・モビリティ支援での生成AI実装モデル検証

SNEPについて

■ 社内的孤立無業者（Solitary Non-Employed Persons: SNEP）とは

東京大学社会科学研究所の研究によって提唱された概念であり、その定義は「20歳以上59歳以下の在学中を除く未婚無業者のうち、ふだんずっと一人か一緒にいる人が家族以外いない人々」である。

「ひきこもり」「ニート」との比較と概念的差異

ニート (NEET):

厚生労働省では「15～34歳の非労働力人口のうち、通学、家事を行っていないもの」と定義される。ニートは主に若年層の非就労状態に焦点を当て、社会的交流の有無は定義に含まれない。

ひきこもり (Hikikomori):

内閣府の調査では、「様々な要因の結果として社会的参加（義務教育を含む就学、非常勤職を含む就労、家庭外での交遊など）を回避し、原則的には6ヵ月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態」と定義され、他者と交わらない形での外出（趣味の用事や近所のコンビニへの外出など）を含む場合もある。ひきこもりは就労の有無を問わず、また家族との交流がある場合も含まれる点がSNEPと異なる。

SNEPとの差異: SNEPは「未婚」かつ「家族以外との交流がほとんどない」という点で、ひきこもりやニートよりも厳密な社会的孤立の側面を強調する、より限定的かつ深刻な孤立状態にある無業者層と言える。

SNEPについて

■ 「社内的孤立無業者（SNEP）」の概念の重要性

SNEPは、単なる無業者や社会的交流が少ない人々とは一線を画し、「20歳以上59歳以下の在学中を除く未婚無業者のうち、ふだんずっと一人か一緒にいる人が家族以外いない人々」を指す概念である。この定義における「ふだん」の交流は、総務省統計局の社会生活基本調査に準拠し、ランダムに指定された連続2日間の状況に着目して把握される。また、「ふだん無業」とは年間30日未満程度の就労状況を指す。SNEPの対概念として「非孤立無業者」が存在し、これは家族以外の人と毎日または2日に1日は一緒にいる時間帯がある無業者を指す。

この概念は、経済的自立の課題だけでなく、社会とのつながりの希薄さという複合的な問題を浮き彫りにする点で、現代社会が直面する孤独・孤立問題の中心的な層を捉える上で極めて重要である。SNEPは、経済的困難と社会的孤立が重層的に絡み合うことで、個人のウェルビーイングだけでなく、社会全体の活力にも影響を及ぼす可能性がある。

SNEPについて

■ 「社内的孤立無業者（SNEP）」集計の現状とデータ上の課題

総務省統計局が5年ごとに実施する「就業構造基本調査」は、国民の就業および不就業の状態を調査し、全国、都道府県、政令指定都市、県庁所在都市、人口30万人以上の市といった地域別の就業構造に関する基礎資料を提供する基幹統計調査である。しかし、この調査報告書内では、SNEPや若年無業者といった特定のカテゴリの都市別集計は明示されていない。したがって、都市部におけるSNEPの正確な集計値を直接的に得ることは困難であり、各自治体が独自に実施している「ひきこもり実態調査」や「孤独・孤立に関する調査」などの結果を、SNEPの定義との関連性を考慮しつつ分析する必要がある。これらの自治体調査は、定義や調査方法が異なる場合があるため、データ解釈や都市間比較には慎重なアプローチが求められる。

先行研究（研究計画発表からのアップデート）

「孤立無業者支援における生成AIとメンタリングの総合的アプローチ -対人関係の回復に向けて」



AIと人の支援を組み合わせ、孤立者の対人関係回復を目指す研究

「孤立無業者支援におけるアナログ×AIの融合 -手紙・電話・留守電を活用したメンタリングの可能性」



手紙や電話にAIを組み合わせ、ICT拒否層の孤立支援を実現するための研究

先行研究

「西多摩地域の地方創生はこうあるべきだ」



- ・都市研究は民間引きこもり援助機関の利用による社会的引きこもり状態からの回復プロセス
- ・心理的な「囚われの状態」からの解放には、「社会との中間地点」での体験によりもたらされる。

「アタッチメント理論から見た青年期の引きこもりとその支援」



- ・青年期引きこもりの対人関係上による問題

社会生活基本調査のオーダーメイド集計

調査の概要

- 社会生活基本調査（Survey on Time Use and Leisure Activities）は 1976年から5年ごとに実施。2021年調査（第10回）は全国約19万人を対象に「一日の時間配分」と「余暇活動」を把握し、ワークライフバランスや高齢社会対策などの政策立案に活用される基礎データを提供。

オーダーメイド集計とは

- 統計センターが申出者の依頼に応じ、社会生活基本調査などの調査票情報を用いて、既存の分類項目を自由に組み合わせたクロス集計表を有償で作成・提供するサービス。e-Stat に掲載されない切り口の統計を、研究・教育・公共目的で入手可能。

利用手続き・留意点

- e-Stat で既存表の有無を確認
- 申出書提出 → 統計センター承諾 : <現在この申出中>
- 手数料を納付（統計法34条に基づく）
- データ受領後、成果を公表（miripo で申出者情報・成果物が公開）
※利用目的は学術・教育・公共性に限定。条件違反時はデータ利用停止措置あり。

今後の予定

- 8月～9月 <文献調査> 玄田先生のSNEP本
- 8月～9月 <文献調査> SNEPに関連する先行研究（論文）
- 9月～10月：社会生活基本調査（オーダーメイド集計）の分析
- 10月～11月： <現地調査> DXツール（アプリ）、DXの取り組み
- 10月～11月： <現地調査> SNEPの分析結果について、担当者との意見交換
- 11月～12月： <現地調査> 過疎地域におけるDX取り組み（奥多摩町）
- 10月～翌1月：論文執筆

文献リスト

- [1] Cabinet Office, Government of Japan. (2016). 我が国と諸外国の若者の意識に関する調査 [Survey on attitudes of young people in Japan and other countries]. https://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/thinking/h28/pdf_index.html
- [2] Cacioppo, J. T., & Patrick, W. L. (2008). Loneliness: Human nature and the need for social connection. W. W. Norton & Company. <https://press.princeton.edu/books/hardcover/9780393065634/loneliness>
- [3] Chang, C.-N., Hui, J., Justus-Smith, C., & Wang, T.-W. (2024). Navigating STEM careers with AI mentors: A new IDP journey. *Frontiers in Artificial Intelligence*, 7, Article 1461137. <https://doi.org/10.3389/frai.2024.1461137>
- [4] Fitzpatrick, K. K., Darcy, A., & Vierhile, M. (2017). Delivering cognitive behavior therapy to young adults with symptoms of depression and anxiety using a fully automated conversational agent (Woebot): A randomized controlled trial. *JMIR Mental Health*, 4(2), e19. <https://doi.org/10.2196/mental.7785>
- [5] Japan Broadcasting Corporation [NHK]. (2010). NHKスペシャル 無縁社会 [NHK Special: The disconnected society]. <https://www.nhk.or.jp/special/muen/>
- [6] 小山克輝, & 坪田博美. (2025). 宮島の森林植生と災害. *巖島研究*, (20), 1-9.
- [7] Nakatani, T. (2019). 感情コンピューティングの未来 [The future of affective computing]. *映像情報メディア学会誌 (ITE Journal)*, 73(6), 424-427. https://www.jstage.jst.go.jp/article/itej/73/6/73_424/_article/-char/ja
- [8] OpenAI. (2023). ChatGPT [Large language model]. <https://openai.com/chatgpt>
- [9] Picard, R. W. (1997). *Affective computing*. MIT Press. <https://affect.media.mit.edu/>
- [10] Tanaka, T. (2015, October 14). 男性の非正規化が「感情」に与える影響 [How the growth of non-regular employment among men affects their emotions]. *Synodos*. <https://synodos.jp/society/14590>
- [11] Weiss, R. S. (1973). *Loneliness: The experience of emotional and social isolation*. MIT Press.
- [12] Zhong, F., & Gu, C. (2024). The impact of health information echo chambers on elderly avoidance behavior: The mediating role of information fatigue and the moderating role of trait mindfulness. *Frontiers in Psychology*, 15, Article 1412515. <https://doi.org/10.3389/fpsyg.2024.1412515>